

ポインタ内閣の発足

2012年5月12日

日本ルーマニア経済委員会顧問
杉内直敏

2月上旬に発足したばかりのウングレアーヌ内閣(民主自由党、ハンガリー人民民主同盟、ルーマニアの進歩のための国民同盟の連立)が不信任決議により倒れ、5月7日ポインタ社会民主党党首を首相とする「社会自由同盟(USL)」による内閣が誕生した。

(注) 「社会自由同盟」は社会民主党、国民自由党、保守党で結成。ヴィクトール・ポインタ社会民主党党首及びクリン・アントネスク国民自由党党首を共同議長とする。

1. ウングレアーヌ内閣不信任

2月7日に発足したウングレアーヌ内閣は経済安定の強化、政治的安定の保証、対話重視等を標榜して実務への取り組みを進め、市町村長、地方・県議会議員、県議会議長を選出する地方選挙の実施を6月10日と定め、またIMF・欧州委員会・世銀の第5次評価ミッションとの間で内閣としてはじめての協議を行うことになっていた。

これに対し「社会自由同盟」は2月の会期開始以来議会審議をボイコットしてきたが、与党議員に離党者が出てきて(3月27日にはフルンザヴェルデ与党民主自由党第一副議長が国民自由党に移籍)、更にこれに続きそうな動きがあることを踏まえて、4月1日ポインタ共同議長は「社会自由同盟」はウングレアーヌ内閣不信任を目指す旨表明した。4月17日に提出された内閣不信任案はウングレアーヌ内閣によるトゥルグムレシュ医科大学へのハンガリー語の学部設置を認める緊急政令発布、エネルギー・天然資源の権益売却に関する諸決定、民主自由党支配下の市町村に対する予備費からの予算配布等を問題視した。不信任案提出後、野党に鞍替えする与党議員が相次ぎ(大半は民主自由党から国民自由党へ、一部は社会民主党、保守党へ)4月27日までに10人を越えたことが不信任決議の採決につながった。採決結果は出席議員数248中賛成235(可決に必要な最小票数は231。民主自由党、ハンガリー人民民主同盟所属議員の多くは欠席)。ルーマニアにおいて不信任決議案が可決されたのは2009年10月の第1次ボック内閣に対するものに次いで2度目。

2. ポインタ内閣の誕生

この結果を受けてバセスク大統領は、同日夕、憲法規定に基づき議会諸政党と協議の後、ポインタ社会民主党党首を次期首相に指名した。

ウングレアーヌ内閣に連立参加し閣僚をも送り込んできた「ルーマニアの進歩のための国民同盟」はいち早く立場を変え5月1日社会民主党との間でプロトコールを結びポインタ内閣支持に回った。5月7日、「社会自由同盟」を構成する社会民主党、国民自由党、保守党はそれぞれの党大会を開き、地方選挙、議会選挙、大統領選挙に「社会自由同盟」の統一候補者を立てること、地方行政、議会、内閣のいずれにおいてもバセスク大統領、民主自由党とは協力しないこと、「同盟」の大統領、首相候補をそれぞれクリン・アントネスク、ヴィクトール・ポインタとすること、を決議した。また、同日3党大会の後に開催された「社会自由同盟」の集会において、ポインタ「同盟」共同議長は、「社会自由同盟」体制が発足すれば直ちに社会保障保険料を軽減し、最低賃金を引き上げ、農産

品に対する付加価値税を切り下げる旨述べた由。

議会(上下院合同会議)は5月7日、提出された閣僚名簿と向こう6ヶ月の施政綱領を審議の上、賛成284、反対92で新内閣の発足を承認し、同日夕の宣誓式を経てヴィクトール・ポンタ社会民主党党首を首相とする「社会自由同盟」内閣が発足した。ポンタ内閣の構成は下記5。

3. 今次政変について

今次政変は仕掛けたポンタ党首率いる社会民主党、或いは共同歩調をとった国民自由党等にしても当初からこのタイミングで実現するかと考えていたかは疑わしく瓢箪から駒の感もある。6月の地方選挙、11月の議会選挙を睨んでバセスク大統領・民主自由党に更なる痛手を負わせることを狙って仕掛けたものが、選挙見通しに不安を感じていた一部の与党議員(特に民主自由党議員に多かった)の離党、そしてその多くの野党への鞍替え機運を加速化させた結果と思われる。移籍が相次ぎ不信任決議の可決が現実化してくる中で「社会自由同盟」の内部で今の時点での政権担当は不得策との声も上がっていた。更にバセスク大統領はかねがねポンタ社会民主党党首の首相指名はありえないと公言し、ポンタ氏自身もバセスク大統領の下で首相を引き受けるつもりはないとしてきたことから見れば今回のポンタ内閣の発足は意外の感もある。しかしながらバセスク大統領としては今回民主自由党から首相候補者が出されなかったと見られ選択の余地はなかった可能性があり、また同大統領としての計算が働いた可能性もある。他方、ポンタ氏率いる社会民主党としても、また「社会自由党」としても、バセスク大統領がギリギリまで諸術策を弄することに対する警戒心もあって自らのコントロールのもとで選挙を実施したい気持ちもあったと思われる。バセスク大統領の下で社会民主党が政権参加するのは今回が初めてではないが(2008-2009第1次ボック内閣)、社会民主党の首相の下で、かつ民主自由党が野党に回る内閣の成立は画期的であり、また選挙を経ることなく政権交代が行われたのは体制変革後のルーマニアで初めてである。

4. ポンタ内閣の先行き

新内閣はこれまでのボック、ウングレアーヌ内閣の路線を修正し、新たな政策を打ち出してくるであろうが、ポンタ首相はIMF・欧州委員会・世銀との合意遵守を約しつつ、「最優先政策についてはとりあえず2012年予算の許す範囲で実施し、残余の経済施策については9月に提示する2013年予算案の対象とする」としている。最優先事項としてきた公務員給与の2010年6月の切り下げ前水準への復旧、及び、違憲判決を受けた年金生活者からの社会保障保険料の還付に関しては、IMF・欧州委員会・世銀の第5次ミッション(4.24-5.9 ルーマニア訪問)との間で議会の承認に先立って話し合いに入り、折衝の結果、公務員給与については6月1日から8%切り上げ、年金生活者への払い戻しについても実施、また、そのため2012年の財政赤字の目標をGDPの1.9%から2.2%に引き上げることが合意された旨発表した(5.6 ポンタ首相発言)。

ウングレアーヌ内閣が犯した問題としてきた点に関しても早急に是正の動きに出てそれに伴い軋轢が生ずるものと思われる。トゥルグムレシュ医科大学の問題はハンガリー人民民主同盟の重大関心事項であり、これにより同同盟との距離は更に広がることになろう。

外交面においては基本的には変化はないと思われるが、マルガ外相の発言としてロシア、中国との関係重視の姿勢が報じられている。

ポンタ内閣は議会選挙後新しい内閣が生まれることを前提にそれまでの半年を任期とする内閣であり、IMF等との合意枠組みを維持する制約の下で、本来相反する性格の連立与党間の足並みを揃えつつ国民の期待に応えられる新政策をどれだけ実施していけるか今後の動向が注目される。

5. ヴィクトール・ヴィオレル・ポンタ内閣閣僚名簿 (2012年5月7日発足)

首相 ヴィクトール・ヴィオレル・ポンタ Mr. Victor Viorel Ponta (社会民主党)
副首相・公共財務大臣 フローリン・ジョルジュスク Mr. Florin Georgescu (社会民主党)
行政・内務大臣 ヨアン・ルス Mr. Ioan Rusu (社会民主党)
外務大臣 アンドレイ・マルガ Mr. Andrei Marga (国民自由党)
法務大臣 テイトゥス・コルラツェアン Mr. Titus Corlatean (社会民主党)
農業・地方振興大臣 ダニエル・コンスタンティン Mr. Daniel Constantin (保守党)
労働・家族・社会保障大臣 マリアナ・クンペアーヌ Mrs. Mariana Campeanu (国民自由党)
経済・通商・ビジネス環境大臣 ダニエル・キツォユ Mr. Daniel Chitoiu (国民自由党)
運輸・社会基盤大臣 オヴィディウ・ヨアン・シラギ Mr. Ovidiu Ioan Silaghi (国民自由党)
環境・森林大臣 ロヴァーナ・プルンブ Mrs. Rovana Plumb (社会民主党)
地域開発・観光大臣 エドワルド・ヘルヴィグ Mr. Eduard Hellvig (国民自由党)
国防大臣 コルネリウ・ドブリツォユ Mr. Coneliu Dobritoiu (国民自由党)
教育・研究・青年・スポーツ大臣 ヨアン・マング Mr. Ioan Mang (社会民主党)
保健大臣 ヴァシーレ・チェポイ Mr. Vasile Cepoi
通信・情報化社会大臣 ダン・ニカ Mr. Dan Nica (社会民主党)
文化・国家遺産大臣 ミルチャ・ディアコヌ Mr. Mircea Diaconu (国民自由党)
欧州問題大臣 レオナルド・オルバン Mr. Leonard Orban (無所属)(留任)
議会関係大臣 ミルチャ・ドゥーシャ Mr. Mircea Dusa (社会民主党)
行政担当国務大臣 ヴィクトール・パウル・ドブレ Mr. Victor Paul Dobre (国民自由党)
ビジネス環境担当国務大臣 ルチアン・イサール Mr. Lucian Isar (無所属)
社会対話担当国務大臣 リヴィユ・マリアン・ポップ Mr. Liviu Marian Pop

(注) ポンタ首相は1972年生まれ(39歳)、ブカレスト大学法学部、国防大学で学び(国際刑事法のPhD取得)、検事を経て2004年から下院議員(ゴルジュ県選出、社会民主党)、2010年より社会民主党議長、2011年2月「社会自由同盟」結成により同同盟の共同議長。

ジョルジュスク副首相は、58歳。2004年より入閣までルーマニア国立銀行副総裁。財務大臣(1992-96)。

マルガ外相は66歳。哲学者、政治学者。1993-2004及び2008年-現在の2度に亘ってバベシュ・ボヤイ大学(クルージュ・ナポカ)学長。教育大臣(1997-2000)。

キツォユ経済・通商・ビジネス環境相は、44歳。ブカレスト経済大学(PhD)で学び経済・財務省を経て国税庁長官(2004-08)、2008年より下院議員(ジュルジュ県選出、国民自由党)。

イサール国務大臣(ビジネス環境担当)は、35歳。入閣までブカレスト経済大学講師。

(以上)